令和４年度

尾瀬山の鼻・尾瀬沼ビジターセンター
運営記録

施設位置図
尾瀬山の鼻ビジターセンター運営記録 … 1
コラム「尾瀬ボランティア」 …11
尾瀬沼ビジターセンター運営記録 …12
コラム「尾瀬自然解説ガイド」 …22
コラム「一般の方から寄せられた声」 …23

巻末資料
ビジターセンター傷病者対応事例 …25
尾瀬のできごとをふりかえる …26
尾瀬のトピックス …29
尾瀬保護財団の沿革と概要 …30
ビジターセンターの自然体験プログラム

公益財団法人　尾瀬保護財団

ビジターセンター位置図

尾瀬山の鼻ビジターセンター

〒378-0411 群馬県利根郡片品村大字戸倉字中原山８９８－９

尾瀬沼ビジターセンター

〒967-0532　福島県南会津郡檜枝岐村字燧ヶ岳１番地

ビジターセンターまでの交通案内

尾瀬山の鼻ビジターセンターまでは・・・

・群馬県片品村の鳩待峠から徒歩で約 60 分。

・鳩待峠まではふもとの戸倉から乗合バス・タクシーで約 25 分

尾瀬沼ビジターセンターまでは・・・

・福島県檜枝岐村の沼山峠休憩所から徒歩で約 60 分

・沼山峠まではふもとの御池から乗合バスで約 20 分

令和４年度　　尾瀬山の鼻ビジターセンター運営記録

Ⅰ．ビジターセンター管理運営

群馬県が設置した尾瀬山の鼻ビジターセンター（以下、山の鼻ＶＣ）の管理運営を平成８年度から受託しています。

１．運営期間

(1) 職員駐在：令和４年 ４月18日(月)～令和４年11月６日(日)（203日間）
(2) 開所期間：令和４年 ５月16日(月)～令和４年10月31日(日)（169日間）
(3) 休 館 日：なし

・４月18日～５月15日　除雪、展示等の開設準備、公衆トイレ管理。
・11月１日～11月６日は公衆トイレ管理、閉設作業等。
※開設期間中は、昨年までの新型コロナウイルス covid-19 感染拡大防止対応の「滞留時間の短縮、及び触れない展示」を、一部従来に戻し展示しました。

２．取扱時間

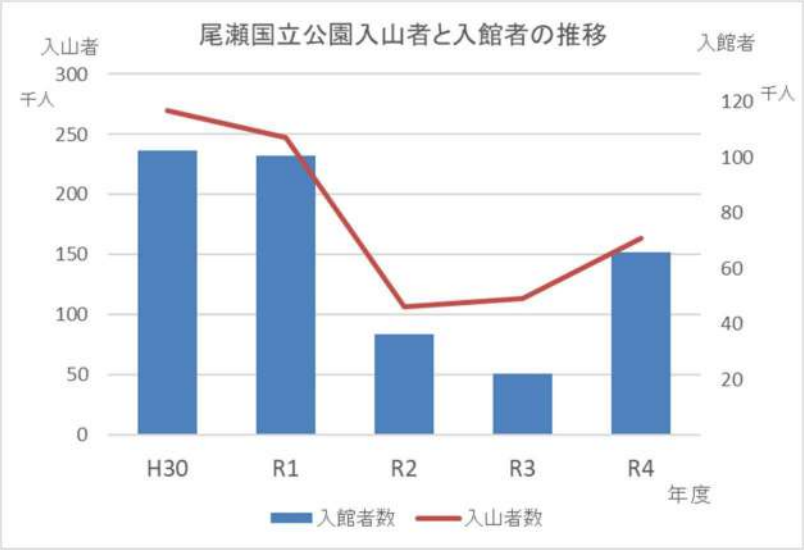
(1) 施設開館　7:00～18:00
※10/24～10/31 の間は 8:00～16:00
(2) 窓口案内　7:30～16:00
※窓口案内については利用者の状況に応じて柔軟に対応しています。

３．入館者数

65,897 人　※尾瀬国立公園入山者　163,223 人

過去５年間の入館者数と尾瀬国立公園入山者数　　（単位:人）

	入館者数	尾瀬国立公園入山者数
令和４年度	65,897	(163,223)
令和３年度	22,013	(113,795)
令和２年度	36,156	(106,922)
令和１年度	100,517	(247,700)
平成30年度	102,550	(269,700)



職員構成

(1) 人数 ８人

(2) 構成

職	氏　　名	主な分掌業務
所　　長	西 澤 政 春	全体統括
管 理 員	坂 上 修 司	統括補助、登山道整備、施設管理、物輸関係
管 理 員	新 保 正 利	シカ・クマ対策、気象機器管理、登山道整備、燃料管理
管 理 員	泉　部　充	産廃管理、備品設備管理、傷病記録
管 理 員	渡 辺 直 子	館内展示管理、各書類記録管理、
管 理 員	田 原 さ ゆ り	消耗品管理、金銭管理、気象観測記録
管 理 員	笠 原 枝 理	館内展示管理、遺失物管理、ボランティア関係
アドバイザー	笹 原 宗 利	管理運営補助、施設管理補助、登山道整備

※情報収集、自然解説、窓口対応等は全員で実施

Ⅱ　自然解説事業

尾瀬を訪れる利用者に、自然とのふれあいを通じて尾瀬にふさわしい利用方法を啓発するとともに、豊かな自然の大切さを意識してもらうことを目的としています。

そのため、山の鼻ＶＣ内の展示室及びレクチャールーム、野外掲示板等を利用し、入山者に対する自然解説及び利用案内を実施しました。

※新型コロナウイルス covid-19 感染拡大防止対応のため､従来の自然解説活動を変更して実施しました。

・スライドショー：レクチャールーム入場者数を制限して実施。

・観察会：参加人数を制限して実施。

また、イベント実施時は手指消毒と検温を徹底しました。

表　令和４年度　自然解説活動のまとめ

区分	自然観察会	スライドショー	環境学習 ﾐﾆｶﾞｲﾄﾞﾂｱｰ	団体レクチャー
参 加 者 数 (人)	152(524%)	536(638%)	99(707%)	220(262%)
実 施 回 数 (回)	47(11)	40(13)	33(6)	8(3)

※ 表中カッコは、上段（%）が前年度比、下段（数値）が前年度実績回数

1.　自然観察会(**写真１**)

土日、祝日を中心に、尾瀬植物研究見本園をフィールドとして実施しました。

①. 実施場所：尾瀬植物研究見本園

②. 実施時間：7:15～8:00

③. 担 当 者：山の鼻ＶＣ職員

2.　スライドレクチャー(**写真２**)

自然観察会と同様の期間で開催しました。主に山小屋宿泊者を対象とし、季節写真や図表等、プレゼンテーションソフトを用いて解説することで、尾瀬への理解を深めてもらいました。

また、人数制限のため山小屋への開催案内を工夫することで可能な限りの集客に努め、上映時間は従来の 40 分間に戻して実施しました。

①. 実施場所：山の鼻ＶＣ内のレクチャールーム
②. 実施時間：18:00～18:40
③. 担 当 者：山の鼻ＶＣ職員

3. 環境学習ミニガイドツアー(**写真３**)

山の鼻ＶＣ周辺での解説者（ガイド）付きの自然観察を含む環境保全施設見学ミニツアー（環境学習ミニガイドツアー）について、募集人員を限定して実施しました。

①. 実 施 日：5/18 より 10/17 までの期間。
②. 実施場所：山の鼻ＶＣ周辺の県有施設、研究見本園及びその周辺
③. 実施時間：一行程あたり 60 分程度。
④. 担 当 者：山の鼻ＶＣ職員及び尾瀬ボランティア

4. 団体レクチャー

事前に依頼を受けた学校関係者や尾瀬を勉強している社会人グループに対して､スライドレクチャーや自然観察会を開催し、環境保全の取り組みや自然への理解を深めていただきました。

5. 館内解説

館内展示物の利用案内を含めた解説を、来訪者の依頼に応じて職員が実施しました。

6. 展示

①. 植物の開花や鳥などの観察ポイント、登山道の危険箇所などの情報提供
②. 気象情報を館内や野外掲示板に表示（天候・最高最低気温・各種注意報等）
③. 写真による代表的な植物や、尾瀬内各地域の様子の展示
④. 時節ごとの観察ポイントを紹介した写真
⑤. バス・電車などの公共交通機関の情報提供
⑥. ニホンジカ（生態、尾瀬への影響、対策等の紹介）の展示
⑦. 写真展示コーナーの設置（野鳥、植物）
⑧. ツキノワグマコーナー（頭骨、毛皮、生態、目撃情報、対策等の紹介）の展示
⑨. 尾瀬国立公園のレリーフマップの設置
⑩. 尾瀬のセグメント別(虫・鳥・両生類)写真コーナーを設置
⑪. ツキノワグマ、野ウサギ、キツネの剥製の展示
⑫. 情報展示システムをプロジェクター投影し、来訪者の操作を可能としました
⑬. 尾瀬保護財団としてのイベント情報の表示

その他、様々な情報を常により良いレイアウトで行い、花の情報用写真の更新、情報展示システムの更新などにも着手しました。

7. 自然情報等の収集・提供

利用者への情報提供や解説資料充実のため、職員が定期的に尾瀬ヶ原、至仏山、アヤメ平を巡回し、登山道や動植物の状況を調査しました。その結果を「尾瀬情報」としてまとめ、尾瀬周辺の各施設、財団ホームページ、関係各機関へ提供しました。

また、毎朝の天候、最低最高気温、学校団体の入山情報及び、毎日のトピックスを「今朝の尾瀬山ノ鼻」、「今日の尾瀬」として毎日、ブログで情報発信を行いました。

※Ｒ４年は気象装置故障のため 10/8 から未計測となりました。

Ⅲ．その他の公園施設等の維持管理（写真４）

尾瀬保護財団では、山の鼻ＶＣの他に、群馬県が整備した、山の鼻公衆トイレ（山ノ鼻地区）、竜宮公衆トイレ（竜宮地区）および群馬県所管の木道・橋等を、平成 8 年度から管理受託しています。

１．山の鼻公衆トイレ

山の鼻公衆トイレ及び、合併浄化槽の管理状況は以下のとおりです。

①．供用期間

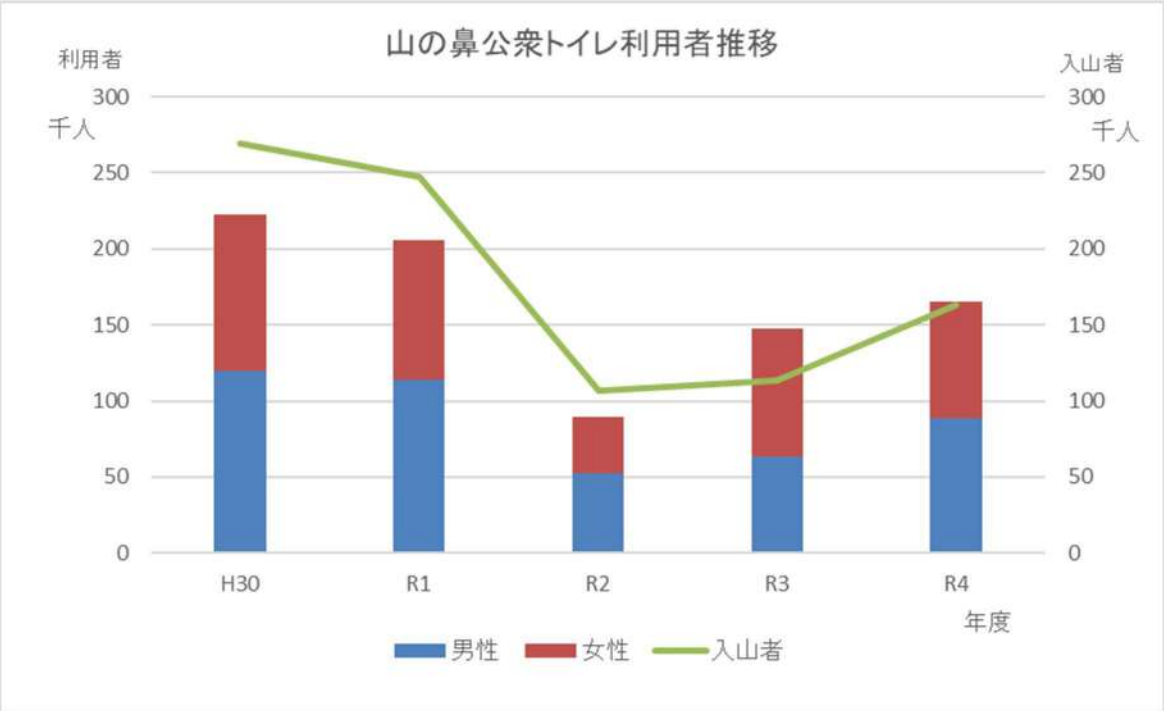
令和 4 年 4 月 22 日～令和 4 年 11 月 6 日（199 日間）

※4 月 22 日～5 月 15 日、10 月 24 日～11 月 6 日の間は男女兼用として開設

②．利用者数(単位：人)

令和 4 年度の山の鼻公衆トイレ利用者数は、前年度比 171%。

年度	男性	女性	計	入山者
令和 4 年度	89, 023	76, 642	165, 665	163, 223
令和 3 年度	54, 715	42, 144	96, 859	113, 795
令和 2 年度	52, 605	37, 080	89, 685	106, 922
令和 1 年度	114, 032	91, 859	205, 891	247, 700
平成 30 年度	120, 104	102, 770	222, 874	269, 700



(ｱ) 清掃

１日１回の定時清掃のほか、随時点検を実施し、きめ細かな清掃を行うことで快適な利用環境に配慮しました。また、施設周辺の美化巡回も含めてゴミのない公衆トイレをめざしました。

(ｲ) 点検

9:00、11:00 の定時点検の他、繁閑を考慮したペーパー補給や巡回を行い、快適な環境を維持しました。

(ｳ) 合併処理浄化槽の維持

専門業者による定期的な保守・点検作業のほか、異臭や異状の有無を把握するように努めました。

(ｴ) 啓発活動

トイレ施設の環境保護に対する取り組みの紹介、協力金についての掲示を作成しました。

２．竜宮公衆トイレ

竜宮公衆トイレ及び、合併処理浄化槽の維持管理業務を専門業者により実施しました。

職員は、定期的に協力金の回収と清掃やその他管理状況の点検を行いました。

３．木道、登山道

群馬県管理道のうち、老朽化等により通行に支障がある箇所について、状況を確認しながら補修を行いました。また、登山道の危険個所に注意看板を設置しました。

①．横田代地区

通行時の危険箇所の補修及び、滑り止めの桟木を要所に設置しました。

②．八木沢道

土砂崩れ箇所や橋板流失箇所に注意看板を設置しました。

Ⅳ．植生復元等の事業の実施

１．荒廃した湿原の植生復元作業地の経過観察

群馬県尾瀬保護専門委員会からの依頼を受けて、平成 16～18 年度に施工した植生復元作業地の回復状況についての経過観察を巡回時に実施しました。

①．実施場所：横田代 標高約 1,880m付近

②．実施回数：巡回時随時

③．実施内容：平成 18 年度に設置した観察区(5 区)について経過観察としての写真撮影

２．至仏山保全対策の各種取り組み（**写真５**）

当財団が設置する至仏山保全対策会議において、植生保護・登山者安全の観点から、至仏山東面登山道を山ノ鼻登山口からの上り利用とし、下りでの使用は禁止としているため、注意看板の設置など啓発活動を実施しました。

山の鼻ＶＣでは各登山口への注意看板の設置、各山小屋等への情報提供を行い、東面登山道の踏み出し防止柵の設置・撤去及び、登山道の補修作業については、財団事務局員とビジターセンター勤務者で作業を実施しました。

Ⅴ．巡回活動の実施

歩道の安全確保、自然情報・利用情報収集、利用者への案内・解説・啓発、美化清掃等を目的に実施しました。

１．巡回のエリアと頻度

①．竜宮方面　　：1 回／週

②. 見晴方面　　：1回／週
③. 赤田代方面　　：1回／週
④. 三条ノ滝方面　：2回／月
⑤. 至仏山方面　　：2回／月
⑥. 長沢道～アヤメ平方面：1回／月
⑦. 八木沢道～アヤメ平方面：1回／月

Ⅵ. その他

1．収入金の管理

パンフレット協力金、募金、公衆トイレチップ等による現金収入を集計・管理しました。また、寄付のお礼として自作の缶バッチを作成し、随時寄付のお願いを掲示しました。

2．山の鼻ビジターセンターの開所５月１６日（**写真６**）

本年度の山の鼻ＶＣの開所式は､新型コロナウイルス covid-19 感染拡大防止の観点から招待者を限定し、昨年と同様近隣の関係者のみで行いました。

3．尾瀬ボランティアの活動支援

シーズン当初から入山口啓発活動や、シーズン終盤の「ありがとう尾瀬清掃活動」のコーディネート、現地での自然解説ボランティア活動の支援を行いました。（尾瀬ボランティアについては、P.11 のコラムを参照してください）

4．傷病事故の対応（**写真７**）

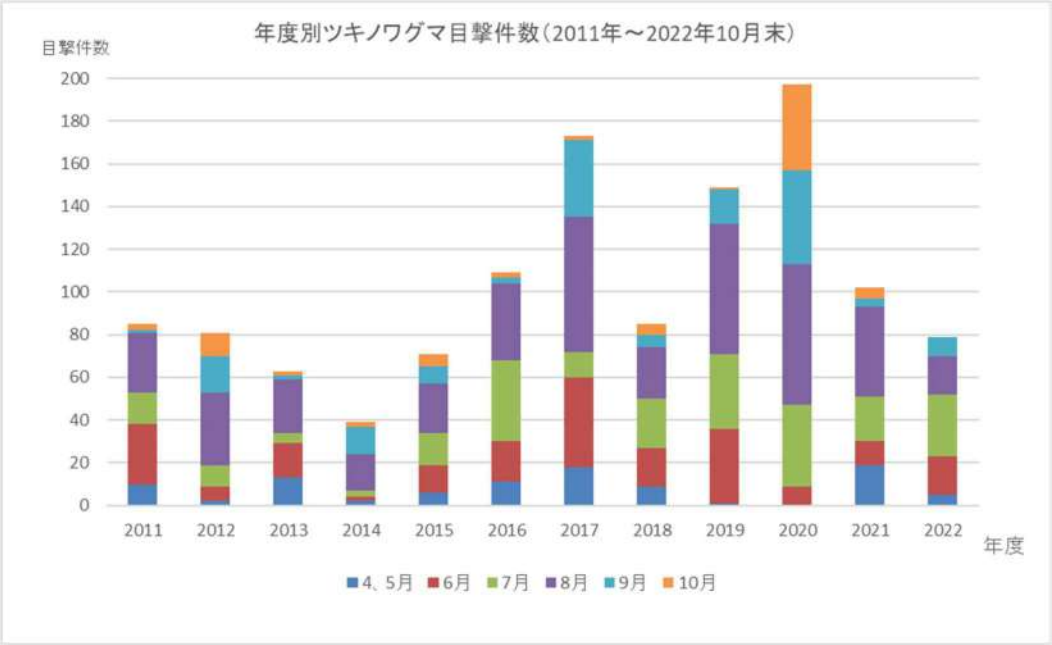
山の鼻ＶＣで扱った今年度の傷病事故件数は 27 件ありました｡山の鼻ＶＣ窓口での簡易な手当や、片品村遭難対策救助隊の臨時隊員として協力した件数が含まれます。※H18 年度(9 月中旬)より AED(体外式自動除細動器)を山の鼻ＶＣに設置。

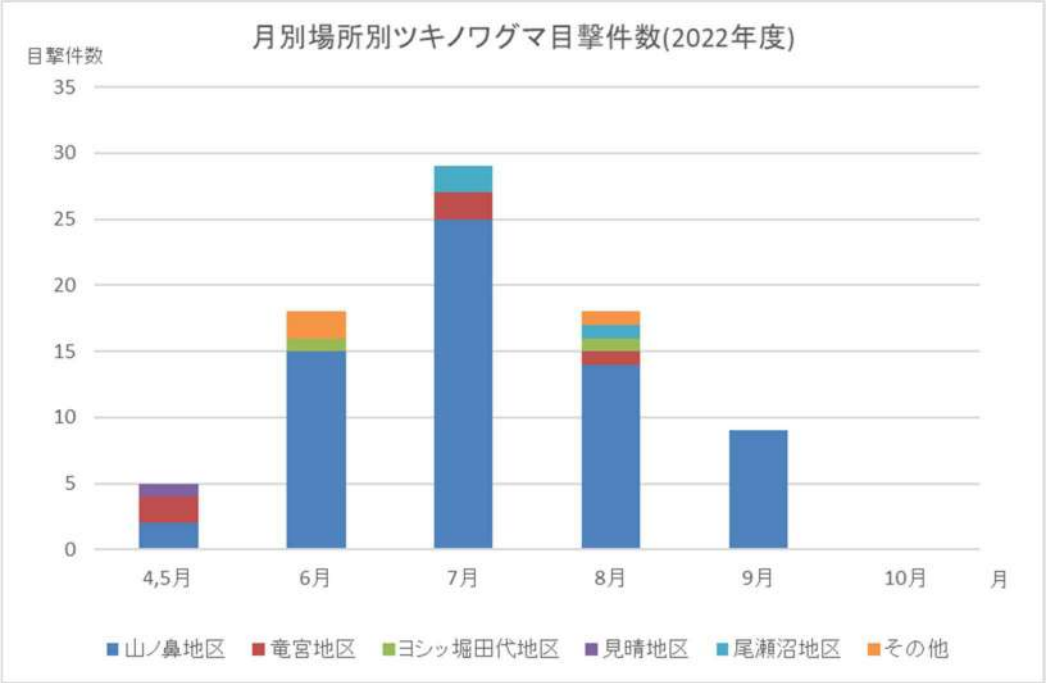
尾瀬ヶ原地区（群馬県側）救助体制の流れを整理し、迅速な救助体制が整えられるよう準備しています。(救急連絡系統図、対応等作成)（巻末資料１「傷病者対応事例」P.22 もあわせてご覧ください）

5．ツキノワグマ対策（**写真８**）

ツキノワグマ対策員に任命された職員が、ツキノワグマ出没対応マニュアルに基づいて対策を行いました。職員は令和４年５月 16 日にツキノワグマ対策研修を受講し、同６月５日に対策員が轟音玉講習を受け、ツキノワグマに対する知識と対策について準備を進めました。

また、一般客からの目撃情報の収集や普及啓発、笹や葦などの刈払い作業等の他、巡視や追い払いを行うとともに、ミズバショウの結実時期である７月下旬から９月上旬まで研究見本園の一部を除き閉鎖し、入山者の安全を図りました。その成果か、本年度は例年と比較して８月の目撃件数の割合が減少しました。





６．ゴミの計量及び域外搬出

群馬県のゴミ処理方針に基づき、山の鼻ＶＣから発生したゴミは、尾瀬地域から域外搬出して処理しました。なお、今年度の総搬出量は 538 kg（前年度 546.5 kg）となりました。

７．定時気象観測

5 月 16 日～10 月 31 日までの毎日、9 時と 15 時の定時に山ノ鼻地区に設置した気象観測機器で気温・降雨量などの観測を行いました。

８．ニホンジカ対策（**写真９**）

群馬県尾瀬保護専門委員会からの依頼を受け、深刻化するニホンジカによる湿原植生等の食害被害を把握するために、研究見本園付近の攪乱地においてシカ柵の設置・撤去を行い、定期的な巡視・点検を実施しました。

（写真１）

【自然観察会】

土日、祝日を中心に、尾瀬植物研究見本園をフィールドとして実施。（公衆トイレ前のシウリザクラ）

時間：7:15～8:00

※1 組５名または２組４名を上限として募集。

（写真２）

【スライドレクチャー】

土日、祝日の前夜を中心に、山の鼻ＶＣのレクチャールームにて実施。

時間　18:00～17:45

人数制限（18 名）のうえ開催。

（写真３）

【環境学習ミニガイドツアー】

山ノ鼻地区の雑排水処理のしくみなど、環境保全への取り組みについて説明。（浄化槽上）

時間：随時受付　60 分以内

（写真４）
【施設等の維持管理】
木道の状況に応じて、簡易な補修や滑り止め用桟木設置作業を実施。（至仏山東面登山道）

（写真５）
【至仏山保全対策の取組】
踏み出し防止柵の設置
至仏山東面登山道、笠ヶ岳の一部で実施。（至仏山東面登山道）

（写真６）
【尾瀬山の鼻ＶＣ開所】
5 月 16 日。招待者を近隣の関係者のみで開催。（山ＶＣ前）

（写真７）
【傷病事故の対応】
傷病者のため消防に救急要請。防災ヘリコプターでの救助の間、見本園を通行止めするなど救助作業を補助。消防隊員が傷病者に搬送用ハーネスを装着し吊り上げ。（研究見本園）

（写真８）
【ツキノワグマ対策の取組】
人とツキノワグマが不意に遭遇する危険を減らすため、刈り払いを実施（研究見本園）

（写真９）
【ニホンジカ対策の取組】
尾瀬ヶ原でのシカ柵の設置
（背中アブリ方面の湿原）

コラム　尾瀬ボランティア
～　ビジターセンター運営充実を目指すパートナー　～

全国から集まるボランティア

尾瀬ボランティアは主に利用者に対する自然保護思想の普及啓発、美化清掃を行うために（公財）尾瀬保護財団が募集を行い、平成 8 年 6 月から組織されています。呼びかけの結果、全国から 298 人が登録され活動しています。

多くの活動形態

尾瀬ボランティア活動には大きく分けてプロテクター的な活動と、インタープリター的な活動があります。それぞれの主な活動メニューは次のとおりです。

（プロテクター的活動）
入山口（鳩待峠、沼山峠、大清水等）での啓発活動
入山口周辺や尾瀬ヶ原・尾瀬沼周辺等での美化巡回
外来植物除去作業、シカ柵設置・撤去作業　等

（インタープリター的活動）
お話しボランティア活動（定点解説）
環境学習ミニガイドツアー　等

現在の登録状況

298 人（令和 4 年 12 月 31 日現在）
内訳：17 都府県（群馬県 123 人、東京都 45 人、埼玉県 30 人、千葉県 25 人、神奈川県 24 人他）
平均年齢　66.2 歳（最年長 92 歳、最年少 22 歳）

尾瀬ボランティアの取り組み

令和 4 年度の活動　・入山口啓発　23 日（参加者延べ 50 人）
・ありがとう尾瀬清掃活動　参加者 18 人
・自主ボランティア活動　59 件

年度	主な取組状況
平成 8	尾瀬クリーン大作戦（以降「ありがとう尾瀬清掃」として継続）
平成 9	鳩待峠路上駐車防止（現在は休止）
平成 10	至仏山登山道整備（以後継続）
〃	沼山峠に「尾瀬ボランティア活動詰所」設置
平成 11	植生復元開始（平成 15 年度までは至仏山、16～18 年度は横田代、19 年度は燧ヶ岳、22～27 年度は至仏山で実施）
〃	啓発活動従事者講習会
〃	尾瀬ボランティア帽子配布
平成 12	県道沼田檜枝岐線の植生回復作業（～平成 13 年度）
〃	お話しボランティア用の旗作成
平成 13	鳩待峠に「尾瀬ボランティアハウス設置」
平成 16	各入山口ボランティアハウスに活動用の腕章を配備
平成 18	至仏山巡回ボランティア（以降「尾瀬巡回清掃」として平成 26 年度まで実施）
〃	ごみ清掃ボランティア（山ノ鼻地区で実施。19 年度は沼尻地区で実施）
平成 19	ビジターセンター支援ボランティア活動開始
平成 29	三平峠付近での桟木打ちボランティア活動開始
平成 30	鳩待峠での群馬県看板の色塗作業の実施
〃	大江湿原でのシカ柵設置・撤去補助作業開始
令和 3	研究見本園でのシカ柵撤去補助作業開始

～　尾瀬ボランティアのみなさま、これからも充実した運営のためにご協力をお願いします　～

令和４年度　尾瀬沼ビジターセンター運営記録

Ⅰ．ビジターセンター管理運営

環境省の所管施設である尾瀬沼ビジターセンターの管理運営を平成８年度から受託しています。（但し、平成 26 年度を除く。）

１．運営期間

(1)　職員駐在：令和４年 ５月 11 日(水)～令和４年 11 月 ２日(水)（176 日間）

(2)　開所期間：令和４年 ５月 14 日(土)～令和４年 10 月 31 日(月)（167 日間）

※但し、10 月４日(火)～10 月７日(金)まで一時閉館。

※5 月 11 日～5 月 13 日は開所準備等、11 月１日～11 月２日は閉所作業等です。

２．取扱時間

(1)　施設開館　7:30～16:00

(2)　窓口案内　7:30～16:00

３．入館者数

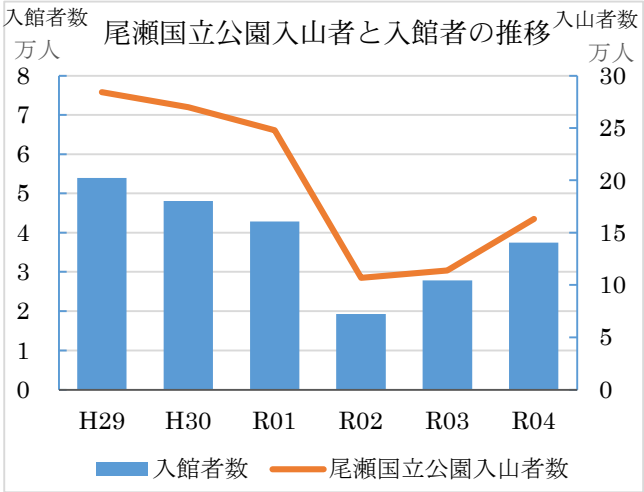
37,472 人

※参考(尾瀬国立公園入山者 163,223)

過去５年間の入館者数と尾瀬国立公園入山者数

	入館者数	尾瀬国立公園入山者数
令和 3 年度	27,824	(113,795)
令和 2 年度	19,293	(106,922)
平成元年度	42,819	(247,700)
平成 30 年度	48,099	(269,700)
平成 29 年度	53,912	(284,390)

（単位：人）



４．職員構成

(1)　人数 ８人

(2)　構成

職	氏　名	主な分掌業務
責任者	阪路善彦	全体統括、事務局調整、勤務・休暇管理、金銭出納簿
副責任者	齋藤孝	統括補助、勤務・休暇管理、月報報告、公衆トイレチップ
管理員	川上藍	収入金、パンフレット、植生復元、シカ・クマ対応、用品管理
管理員	玉田英司	窓口対応、日誌管理、機関誌、拾得物管理、食事管理
管理員	青木敏彦	電話対応記録、ボランティア支援、イベント企画
管理員	馬場大祐	アンケート管理、ヘリ対応、情報発信、防火管理
管理員	奥美絵	入館者数、団体レクチャー、傷病記録、公衆トイレ管理
管理員	八幡直輝	作業・展示記録、ゴミ管理、燃料管理

Ⅱ．自然解説事業等

利用者に向けて尾瀬にふさわしい利用方法を啓発するとともに、豊かな自然の一端に触れ、自然の大切さを認識してもらうことを目的とし、ビジターセンター周辺とビジターセンター館内の展示室、レクチャールーム室及び掲示板等を利用し、自然解説や利用案内等を実施しました。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、人数制限及び当日予約制として自然解説活動を行いました。

・自然観察会：参加人数を 5 名程度に制限して実施。

・スライドショー：レクチャールームでの参加人数は 20 名以内に制限して実施。

・団体レクチャー：参加者を 20 名程度に制限して実施。

※イベント参加者に対しては、事前に健康状態申告書に記入してもらうとともに体温測定を行い、参加者の健康状態を確認しました。

表　令和 4 年度　自然解説活動のまとめ

区分	自然観察会	夜のイベント	拡大イベント		見晴イベント	団体レクチャー
			星空観察会	その他		
参加者数(人)	575	442	171	61	42	343
(前年度)	(491)	(437)	(183)	(16)	(16)	(122)
実施回数(回)	385	48	23	6	6	21
(前年度)	(377)	(46)	(24)	(3)	(6)	(9)

※1 表中カッコは、前年度の数値。

※2 自然観察会には、尾瀬を感じるミニツアー、朝イチ観察会を含む。

※4 拡大イベントには、ナイトハイク、トークショー「尾瀬の大切な歩荷さんを知っていますか」、特別講演会「大江湿原におけるニッコウキスゲのシカ食害」、「空を飛ぶほ乳類」を含む。

※5 見晴休憩所が閉鎖中なので、見晴休憩所を使わない形で見晴ナイトハイクと見晴観察会を実施しました。

1. 自然観察会（**写真１**）

(1) 尾瀬を感じるミニツアー

①. 実施場所：大江湿原や尾瀬沼ビジターセンター周辺

②. 実施時間：毎日午前 9:00～9:30、午後 13:00～13:30（午前午後、各 1 回）

③. 担当者：尾瀬沼ビジターセンター職員

(2) 朝イチ観察会

①. 実施場所：大江湿原や尾瀬沼ビジターセンター周辺

②. 実施時間：土日祝日の朝 7:30～8:15

③. 担当者：尾瀬沼ビジターセンター職員

2. 夜のイベント

(1) 夜のスライドショー（**写真２**）

①. 実施場所：尾瀬沼ビジターセンターのレクチャールーム

②. 実施日：土日及び祝日の前夜 19:00～19:45
③. 担当者：尾瀬沼ビジターセンター職員

3. 拡大イベント

(1) 星空観察会（**写真３**）
①. 実施場所：尾瀬沼ビジターセンター周辺
②. 実施時間：6 月～ 8 月　夜 19:30～20:15
9 月～10 月　夜 19:00～19:45
③. 担当者：尾瀬沼ビジターセンター職員

(2) ナイトハイク（**写真４**）
①. 実施場所：大江湿原と浅湖湿原
②. 実施時間：9 月 9 日(金)、10 月 1 日(土)及び 10 月 9 日(日)の夜 19:00～20:00
③. 担当者：尾瀬沼ビジターセンター職員

(3) トークショー「尾瀬の大切な歩荷さんを知っていますか」（**写真５**）
①. 実施場所：尾瀬沼ビジターセンターのレクチャールーム
②. 実施時間：9 月 18 日(日) 19:00～19:45
③. 講師：（歩荷）五十嵐寛明さん、萩原雅人さん

(4) 特別講演会「大江湿原におけるニッコウキスゲのシカ食害」
①. 実施場所：尾瀬沼ビジターセンターのレクチャールーム
②. 実施時間：8 月 16 日(火) 19:00～19:45
③. 講師：福島県尾瀬保護調査会委員長　木村勝彦先生

(5) 特別講演会「空を飛ぶ哺乳類」（**写真６**）
①. 実施場所：尾瀬沼ビジターセンターのレクチャールーム
②. 実施時間：8 月 17 日(水) 19:00～19:45
③. 講師：福島県尾瀬保護調査会委員　岩崎雄輔先生

4. 見晴イベント

(1) 見晴ナイトハイク
見晴地区から尾瀬ヶ原に出ると空を遮るものがなく、星空観察に好適です。満天の星とともに尾瀬の魅力を発見してもらうために、このイベントを開催しました。
①. 実施場所：見晴地区周辺
②. 実施時間：7 月 31 日(日)、8 月 27 日(土)、9 月 30 日(金)の夜 19:00～19:45
③. 担当者：尾瀬沼ビジターセンター職員

(2) 見晴観察会
①. 実施場所：見晴地区周辺

②．実施日：見晴ナイトハイク実施日の翌朝　7:30～8:45
③．担当者：尾瀬沼ビジターセンター職員

5．団体レクチャー
事前に依頼を受けた学校関係者や尾瀬を勉強している社会人グループに対して、スライドショーや自然観察会を開催し、環境保全の取り組みや自然への理解を深めていただきました。
18 団体（343 名）

6．ビデオ上映
レクチャールームにて尾瀬の四季を紹介した「尾瀬国立公園の四季」（約 18 分）や「尾瀬国立公園の誕生」（約 18 分）などのビデオを随時上映しました。

7．館内解説
ＶＣ開館時間中は、展示室内に人員を配置し、随時館内展示物の利用案内を含めた解説を実施しました。

8．常時展示（一部抜粋）
新型コロナウイルス感染拡大防止のため、なるべく展示物に触れないような展示に変更しました。

① 尾瀬国立公園について	⑫ 立体地図
② 尾瀬の成り立ち	⑬ 尾瀬に生息する動物たち （尾瀬にやってきたニホンジカ）
③ 湿原と泥炭	⑭ 尾瀬に生息する動物たち （毛皮・剥製標本）
④ 尾瀬の花	⑮ 映像スライドショー
⑤ 尾瀬の野鳥	⑯ インフォメーション （イベント情報・交通情報等）
⑥ 尾瀬の哺乳類	⑰ マナー・禁止事項
⑦ 尾瀬の昆虫・両生類・魚類	⑱ 尾瀬の歩荷 （リアルな歩荷さんの装備の紹介）
⑧ 標本展示（ツキノワグマ）	⑲ 空から見た大江湿原
⑨ 尾瀬の歴史	⑳ フィールド情報・天気予報
⑩ 尾瀬の自然環境を守る取り組み	㉑ 尾瀬情報 （巡回等で収集した情報を掲示）
⑪ 尾瀬沼周辺の最新情報	㉒ 尾瀬ネイチャーツアーデスク

9．企画展示
次の企画展示を行いました。
①．尾瀬に生息する動物たち（ホンドオコジョ・ニホンヤマネ）

②．今咲いている尾瀬の花
③．燧ヶ岳登山情報
④．ビジターセンターおすすめスポット（職員おすすめスポットの紹介）
⑤．昔の尾瀬の写真展（芸術の秋、読書の秋、スポーツの秋）
⑥．尾瀬沼の秋を満喫しよう

10．自然情報等のリアルタイムな収集と発信

巡回範囲の尾瀬沼を中心とした地域や巡回範囲外の会津駒ヶ岳、田代山等の自然情報や利用情報等の収集を行い、得られた情報を利用者及び関係機関等に提供しました。巡回範囲外の尾瀬ヶ原地域については、尾瀬山の鼻ＶＣなどの関係機関と協力し情報の収集と発信を行いました。収集した情報は、ＶＣ館内での掲示及び配布、ブログ、Facebook、twitter 等のインターネットにより利用者へ提供しました。また、山小屋や入山口周辺の掲示板や施設、関係機関へは尾瀬山の鼻ＶＣ及び財団本部などと連携し、紙面や電子ファイルなどにより情報を提供しました。

Ⅲ．巡回活動の実施

自然情報の収集、歩道の状況確認、美化清掃等を目的に下記区域を巡回しました。

No	巡回区域	頻度(目標)	実施回数
①	尾瀬沼方面	1 回／2 週	12 回
②	大清水方面	1 回／2 週	11 回
③	燧ヶ岳方面	1 回／2 週	12 回
④	沼尻～見晴方面	1 回／2 週	13 回
⑤	燧裏林道方面	1 回／2 週	8 回
⑥	大江湿原・小淵沢田代方面	毎日	167 回
⑦	会津駒ヶ岳方面	－	6 回
⑧	帝釈山・田代山方面	－	7 回
⑨	道行沢・御池方面	－	－

Ⅳ．施設管理及びその他の業務

１．傷病者発生時の対応（**写真７**）

檜枝岐村遭難対策協議会（尾瀬沼地区本部：尾瀬沼ヒュッテ）の指示により、尾瀬沼地区周辺で発生した傷病者の対応を行いました。対応した件数は以下のとおりです。なお、切り傷等の窓口対応のみの事象も含まれています。

計：　10 件（うち、担架搬送 1 件、ヘリ搬送 3 件）

２．危険箇所の掲示

巡回などで危険と判断した箇所について、必要に応じて除雪や注意喚起看板、またはロープ柵の設置を行いました。また湿原への踏み込み防止のために、必要に応じてロープ柵等の設置

を行いました。また、自然災害等による被害が発生した場合には、現地に注意喚起看板を設置するとともに、関係機関等に迅速な情報提供を行いました。

３．非常時における公園利用者の誘導及び安全措置の実施

台風や豪雨等の接近時に、朝方に木道・登山道などの巡視を行い、冠水・倒木等の状況を確認して迅速に関係機関への情報提供を行いましたが、今シーズンは台風等の接近はなく、被害もありませんでした。

また、その他の緊急時においても利用者への情報提供及び注意喚起看板の設置等の必要な対策を行いました。

４．ニホンジカ捕獲業務の補助作業　（**写真８**）

尾瀬沼周辺で行われるニホンジカ捕獲業務において、シカセンサー受信機による反応の有無確認作業やシカセンサーに反応があった場合、現場へ赴いてニホンジカ捕獲の有無を確認、状況報告を行いました。またツキノワグマが錯誤捕獲されている場合も現場確認、状況報告を行い、放獣作業では、安全のために現場周辺を立ち入り禁止にするなどの補助作業を行いました。

Ⅴ．尾瀬沼ビジターセンター職員が兼務したその他の事業

１．尾瀬沼集団施設地区公衆便所清掃等業務

尾瀬沼地区運営協議会から委託を受け、尾瀬沼公衆便所の清掃業務等を行いました。

２．福島県特植事業

(1)尾瀬地区植生復元調査等業務（**写真９**）

尾瀬地区の福島県地域における植生復元事業として、雪圧により沈下した調査杭の引き起こし等の管理、外来植物及び平地性植物除去及び堀の清掃作業、シカの食害影響調査等を行いました。

３．財団自主事業

(1)尾瀬ボランティア活動支援

入山口啓発活動（沼山峠、滝沢登山口、馬坂峠登山口、猿倉登山口）においてボランティア活動支援を行いました。

(2)外来植物対策事業（**写真１０**）

外来植物オオハンゴンソウの増殖を防ぐために、7 月に小沢平口にて関係機関と連携し除去活動を行いました。

(3)大江湿原シカ侵入防止柵設置及び撤去作業（**写真１１**）

大江湿原へのニホンジカの侵入を防止するために、関係機関と連携して、6 月にシカ侵入防止柵の設置作業を行い、10 月に撤去作業を行いました。

（写真１）
【自然観察会】
日中、尾瀬を感じるミニツアー等を大江湿原や尾瀬沼ビジターセンター周辺で実施。
・尾瀬を感じるミニツアー：
　毎日　9:00～ 9:30
　毎日 13:00～13:30
・朝イチ観察会
　土日及び祝日 7:30～8:15

（写真２）
【夜のスライドショー】

尾瀬沼ビジターセンターのレクチャールームにて実施。
　土日及び祝日の前夜
　19:00～19:45

（写真３）
【星空観察会】
尾瀬沼ビジターセンター周辺で星空観察会を実施。
天気がよくない時は、レクチャールームにて星空解説を実施。
6 月～ 8 月：19:30～20:15
9 月～10 月：19:00～19:45

（写真４）
【ナイトハイク】
ナイトハイクでは、夜の大江湿原と浅湖湿原を歩き暗闇を体験してもらい、また夜のニホンジカの生態を観察しました。

（写真５）
【トークショー】
歩荷さんをお呼びして「尾瀬の大切な歩荷さんを知っていますか」を実施。

9 月 18 日(日) 19:00～19:45

（写真６）
【特別講演会】
講師に福島県尾瀬保護調査会の岩崎先生をお招きして特別講演会「空を飛ぶ哺乳類」を実施。

（写真７）
【傷病者発生時の対応】
傷病者を防災ヘリコプターのところまで担架搬送したり周辺の木道を通行止めにしたりするなどの補助作業を実施。
（大江湿原）

（写真８）
【ニホンジカ捕獲業務の補助】
シカセンサーに反応があり、現場でシカ捕獲を確認した後、環境省担当官に報告。
（大江湿原周辺）

（写真９）
【福島県植生復元調査】
調査杭の引き起こし作業を実施。（見晴地区）

（写真１０）
【外来植物駆除】
小沢平口付近にて、関係者と協力して外来植物オオハンゴンソウの駆除作業を実施。
（小沢平口付近）

（写真１１）
【シカ侵入防止柵設置】
関係機関と協力してシカ侵入防止柵を設置。
（大江湿原周辺）

コラム　尾瀬自然解説ガイド

～ビジターセンターのサポート～

尾瀬自然解説ガイドとは　　～自然に親しむお手伝い～

主に滞在時間の短い入山者を対象にした自然解説のためのガイドです。自然に親しむとともに、マナーの向上を図り、尾瀬の適正な利用を推進することが目的です。尾瀬ボランティアとしても活動するガイドが、ビジターセンターを起点・終点として案内を行い、参加料は１人当たり５００円～１，５００円です。この参加料金は、保険料や緊急時の無線機購入などの事務費に充てています。

活動の意義　　～尾瀬を深く理解してもらうために～

尾瀬サミット２００２で、尾瀬におけるガイドの役割とガイド資格の課題が議論されたことをきっかけに、財団のガイド事業への取組が始まりました。財団では、尾瀬に対する理解を深めてもらうためには、尾瀬の自然の素晴らしさを実感してもらうことに加え、尾瀬の自然保護に対しても十分理解してもらうことが必要だと考えています。ガイドは、尾瀬の魅力や大切さを掘り下げて利用者に伝えることのできる担い手です。尾瀬自然解説ガイドの利用を通じて、多くの入山者に貴重な尾瀬の自然を体感してもらえるよう活動を続けています。

活動の実績

年度	合計利用者数(人)	尾瀬ヶ原ガイド利用者数(人)	尾瀬沼ガイド利用者数(人)
H18	240	190	50
H19	252	245	7
H20	452	448	4
H21	294	290	4
H22	292	292（内尾瀬学校は 113）	0
H23	239	197（内尾瀬学校は 135）	42
H24	642	450（内尾瀬学校は 372）	192
H25	890	633（内尾瀬学校は 558）	257（内環境学習は 255）
H26	155	155（内尾瀬学校は 122）	―
H27	487	477（内尾瀬学校は 415）	10
H28	379	322（内尾瀬学校は 256）	57
H29	458	444（内尾瀬学校は 321）	14
H30	355	341（内尾瀬学校は 194）	14
R1	274	263（内尾瀬学校は 151）	11
R2	16	16（内尾瀬学校は 16）	0
R3	covid-19 感染拡大防止のため、中止		
R4	4	4	0

信頼される自然解説ガイドを目指して　～質の高いガイドの人材を確保～

ガイド事業の成否を決めるのは、ガイドの質そのものです。尾瀬自然解説ガイドでは、ＩＰ（インタープリテーション）研修を受講済みの尾瀬ボランティアの方を対象に、導入研修を実施し、レポートの提出・現地研修をもって、ガイド登録を行っています。現在 13 名のガイドが登録されています。

また、催行中の事故等にも対応できるよう、3 年おきに救急救命講習の受講を義務づけたり、既登録者対象の技術研修を実施したりするなど、ガイドレベルの維持向上に努めています。

ビジターセンターとの連携　～利用者の安全のために～

尾瀬自然解説ガイドは無線機を持ち歩き、ビジターセンターと連絡を取り合っています。それは、ビジターセンターにガイド状況を適切に伝えることにより、ガイド利用者の安全を確保していくためです。尾瀬はラムサール条約に登録され、また単独の尾瀬国立公園に指定されたことにより、さらなる注目を集めています。安心で安全な尾瀬利用を確保するため、安全確保に対するガイドの質も重要になっていくことでしょう。～　ビジターセンター利用者のみなさま、これからも充実した運営のためにご意見をお願いします。

コラム　一般の方から寄せられた声

～ビジターセンターに寄せられた声から～

展示室、スライドレクチャーを見て（尾瀬山の鼻ビジターセンター抜粋）

- いろいろな展示物があってとても面白かったです。また、来たいと思いました。
- 尾瀬の熊がすごく怖いが、すごく面白かった。
- 環境保全のために必要なことはもう少し広く知っていただくようなアピール方法をもう少し考えた方がいいと思いました。
- クマからのがれる方法など、生き物について親切に書いてありました。剥製も生きているみたいですごかったです。
- 尾瀬がごみ持ち帰り運動の発祥の地とは知りませんでした。大切に尾瀬が長く保たれるように祈っています。
- おぜの自然がとても素晴らしかったので、また来たいです。木道があって歩きやすかったです。
- 自然が楽しめる最高の場所でした。クマが遠距離にいて、ちょっと怖かったけど面白かったです。
- 東京から来たのですがとても自然豊かで、他の登山者(ハイキングに来ている方)も優しく、心が浄化されるよい山道でした。神秘的で来てよかったと感じました。
- 東京都江戸川区から来ました。そして、東京にはあまりないものを体験できました。こんな山が近いのも初めてだし、山道を歩いてみるのも初めてです。様々な体験をさせていただき、ありがとうございました。
- 尾瀬の歴史を表示していただき、皆様方の自然への復元に感謝いたします。ビジターセンターの方々の努力で、これからも美しい尾瀬を守ってください。ありがとう。
- ヘリコプターは、運ぶのが速かった。荷物をいっぱい運んでいた人もすごいです。
- なぜ、木道の下に下りてはいけないのかの理由が知れて良かった。
- 尾瀬の花や生物のことがよくわかりやすく、楽しかったです。多くの皆さんの努力で、いつまでも尾瀬が美しくあってほしいものです。

自然ふれあいイベントに参加された方から（尾瀬沼ビジターセンター）

- とてもきれいにしてあり展示物も面白そうでした。夕方 4 時 30 分くらいまでオープンしているとありがたいです。
- 美しい自然保護に努めていただき、とても感謝です。ツイッターとかあればフォローします。
- 自然を大切に共存していく心を子供達にも伝えていきたいと思います。
- とてもきれいで雰囲気の良いビジターセンターでした。働いている方が尾瀬を愛していることが伝わってきて良かったです。
- （星空観察会）レーザーポインターで夜空を照らすと何の星か分かりやすいと思いました。
- コストはかかりますが、大切な取り組みだと思います。
- 自然を守る教育活動ありがとうございます。私たちも尾瀬が大好きですので大切にしたいです。
- 大清水のトイレで 100 円を払いはしたが、まさかこんなに手間暇かけて汚水処理されているとは知りませんでした。
- 尾瀬の初心者ですが、沢山のことを教えていただきました。
- 毎日財団 HP を見ています。引き続きよろしくお願いします。

- わたしもお花が好きなので、お花についてくわしく聞かせてくれて嬉しいです。そしてわかりやすく言ってくれていたので分かり易かったです。来年も来るかもかしれないので続けてほしいです。次回もよろしくお願いします。
- 沼尻のトイレが閉鎖中だったので、事前に広報されていればよかったと思います。これから人出も多くなるので。
- いつも歩きやすく整備していただきありがとうございます。
- 樹木系の展示がもう少しほしい。
- 雪道の情報をブログ等にアップお願いします。参考になります。
- 環境を大切にしたい気持ちが強くなりました。
- 自然保護に対するマナー啓発などを積極的にやったほうがよいと思います。
- 環境保護についてあらためて考える機会になりました。これからも続けていってください。
- もっとデジタルや映像化を用いて展示したほうが良い。
- 「尾瀬のお花」の花の名前に漢字も付けてもらえるともっと嬉しいです。
- 展示はすごく立派で素晴らしいと思いますが、立派すぎて親しみがわきにくい人がいるかもしれません。ぜひ、スタッフの数を増やしてツアーやフィールドワークのようなものをもっと増やしてほしいです。実物にまさるものはないと思います。予算のこともあるでしょうが頑張ってください。
- 木が大きくなったので、尾瀬沼のライブカメラから燧ヶ岳が見えません。位置を変えた方が良いと思います。
- 夜のレクチャーは入口に看板やヒュッテの放送などあればよかった。
- きれいになっていて展示物が見やすいです。
- いつも快く迎えて下さり感謝ばかりです。
- とても面白くて長居したくなります。
- 多くの努力の上に現在の自然環境が成り立ち保全されていることに感謝です。
- 今後も良いものがあれば参加したいです。
- スライドショーやミニツアーの周知がもっとされると参加者が増えると思いました。
- センター内に展示物がスタッフの手作りが多く、他のセンターと比べて良い。
- きれいなトイレをありがとうございます。
- 尾瀬の魅力を教えていただき感動しました。
- スタンプを集めているので欲しいです。
- 無料でこういうツアーをして下さってありがたいです。
- もっともっとツアーを開催して下さい！
- 広く人々に尾瀬を知らせるように頑張って下さい。
- いつも対応が丁寧で感心しています。
- （星座の説明の時）スマホの画面よりタブレットのほうが見やすいかも。
- 職員の方の福島愛を感じました。ありがとうございました、毎年人によって視点が違うので、来年もイベントに参加するのを楽しみにしています。
- 素晴らしい企画展示ありがとうございます、また来ます。
- スライドショーや星空観察会を楽しみにしています、いつもありがとうございます。
- 良い学習機会を提供いただきありがとうございました。
- ありがとうございました、また尾瀬沼に来たらイベントに参加します。

巻末資料１

令和４年度　ビジターセンター傷病者対応事例

尾瀬山の鼻ビジターセンター対応事例

山の鼻公衆トイレ付近	積雪の行程で心身ともに疲労のため、救急隊へ救助要請しヘリ搬送。 ＶＣ職員が救助補助。
鳩待峠～山ノ鼻間	転倒により頭部から出血。本人歩行不能により救助要請しヘリ搬送。
白砂峠	腰痛により歩行不能、救急隊へ救助要請。
ヨセ沢階段下	転倒し頭部負傷、救急隊へ救助要請。
竜宮からヨッピ吊橋の間の木道	VC への救助要請により出動、三角巾固定後鳩待峠まで同行。
テンマ沢湿原	通行人から救急要請、現場へ急行し状態を見て救急隊へ救助要請。
牛首分岐付近	木道転倒し指を骨折。添木・テーピング固定、患部冷却処置し救急隊へ救助要請。
鳩待峠～山ノ鼻間の階段	転倒による右肩擦過傷及び打撲創被覆。止血及び被覆し救急隊へ救助要請しヘリ搬送。
テンマ沢	転倒し右足骨折。三角巾およびトレッキングポールで固定し、救急隊へ救助要請。
牛首分岐	病気のため歩行不能。救急隊へ救助要請。山小屋で救急隊到着まで体調変化を観察。

尾瀬沼ビジターセンター対応事例

発生場所	対応内容
白砂峠	疲労のため自力歩行が困難、職員が付き添い見晴地区の山小屋まで同行。
尾瀬沼集団施設地区	持病発作。救急隊へ救助要請ヘリ搬送。
沼尻～見晴	熱中症の疑い。山小屋に宿泊手配。
尾瀬沼北岸	発見時、心停止、救急隊へ救助要請。担架搬送。
大清水平分岐～沼尻の間	木道上で転倒、手指の切り傷。消毒及び絆創膏で応急処置。
尾瀬沼北岸	木道上で転倒、VC まで担架搬送、救急隊へ救助要請。仮固定処置後、ヘリ搬送。

巻末資料２

－令和４年度　尾瀬のできごとをふりかえる－

令和４年度の尾瀬は、新型コロナウイルス covid-19 感染拡大の規制が緩和されたことにより、入山者が昨年に比べて増えました。

山ノ鼻に位置する研究見本園では、令和２年秋に設置された植生保護柵が令和３年秋に全体に延長されましたが、今年は雪解け時期には設置完了しました。春の設置、秋の撤去には企業ボランティアのみなさまに多数参加していただきました。

今年のツキノワグマ目撃件数は７９件と昨年の１０２件に比べ減少しました。ミズバショウの結実時期である８月に毎年目撃件数が最も多くなりますが、今年は研究見本園を７月末から一部を除き立入制限としたためか、８月の目撃情報が減少しました。

尾瀬ヶ原周辺のできごと （尾瀬山の鼻ビジターセンター報告）		尾瀬沼周辺のできごと （尾瀬沼ビジターセンター報告）	
４月		４月	
18	開設準備のため上山(除雪作業)		
22	鳩待線開通　山の鼻公衆トイレ共用開始		
５月		５月	
9-10	管理員研修(県庁)	9-10	管理員研修（県庁）
11	上山	11	上山
14	八木沢橋の橋板設置	14	ビジターセンター開所
15	ツキノワグマ研修(山 VC、群馬県、環境省)	15	ツキノワグマ研修(山 VC)
16	開所式(至仏山荘、山の鼻小屋、龍宮小屋、群馬県、尾瀬ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ、環境省)		
〃	遭難救助関係者打合せ(片品村、谷川救助隊、東消防署)		
17	研究見本園植生保護柵設置		
18	ヘリコプター物資運搬	18	巡回開始（大清水）
20	第一ベンチ箇所植生保護柵設置		
23	ガイド協会による鳩待～山ノ鼻間の除雪		
		28	御池～沼山峠間シャトルバス運行開始 夜のスライドショー開始
		30	沼山峠ボランティアハウス設置
６月		６月	
5	轟音玉講習会参加	4-5	轟音玉講習会参加
		6	管理員研修（那須平成の森）
9	シラネアオイ植生保護柵設置	11	帝釈山・台倉高山山開き
12	消防訓練実施（1 回目）	12	田代山山開き（猿倉）
14	山ノ鼻地区クマ対策会議	15	消防訓練実施（1 回目）
		16	管理員研修（那須平成の森）

尾瀬ヶ原周辺のできごと （尾瀬山の鼻ビジターセンター報告）		尾瀬沼周辺のできごと （尾瀬沼ビジターセンター報告）	
		16	消防の予防査察
17	至仏山東面登山道植生保護柵設置	18	低公害車運行開始（大清水～一ノ瀬間）
21	VC 周辺シウリザクラ開花	22	大江湿原シカ侵入防止柵設置
25	至仏山東面登山道整備		
27	至仏山残雪調査		
29	クマ鐘設置(原の川上川橋)	28-29	福島県植生復元作業（見晴等）
30	横田代木道整備(桟木 100 本)		
30	至仏山東面登山道入口立入防止柵撤去		
7 月		7 月	
1	至仏山山開き	2	会津駒ヶ岳夏山開き
3	笠ヶ岳登山道立入り防止柵設置	3	燧ヶ岳夏山開き
19	研究見本園ツキノワグマ安全対策のため全面閉鎖(至仏山東面登山道除く)		
20	研究見本園至仏山東面登山道の夜間通行制限(ツキノワグマ安全対策のため)		
26	至仏山東面登山道階段付近笹刈り		
		30	小沢平外来植物オオハンゴンソウ駆除
8 月		8 月	
4-5	尾瀬シーズンスクール開催	6	燧ヶ岳（熊沢田代）木道補修
		16	福島県尾瀬保護調査会委員による特別講演会（1 日目）
		17	福島県尾瀬保護調査会委員による特別講演会（2 日目）
21-25	研究見本園刈払い実施(ツキノワグマ対策)	20	ふくしま尾瀬自然体験ツアー
27	尾瀬ボランティア講座現地研修(第一回)		
30	消防訓練（2 回目）		
9 月		9 月	
5	研究見本園閉鎖解除	3	福島県教職員モニターツアー
6	台風 11 号　山ノ鼻地区停電発生(11:50)	6	尾瀬保護財団理事現地視察
7	電気復旧(12:10)	9	ナイトハイク（1 回目）
10	尾瀬ボランティア講座現地研修(第二回)	10	福島県教職員モニターツアー
12	十二山神祭（山の鼻小屋、尾瀬ロッジ、至仏山荘、龍宮小屋）	13	管理員研修（那須平成の森）
14	水源地中間バック清掃		
15	尾瀬保護財団理事現地視察	16	管理員研修（那須平成の森）
18	台風 14 号　巡回途中中止	18	NTT ドコモ電波開通
21	NTT ドコモ電波開通	23	教職員モニターツアー
24	台風 15 号　被害なし		
28	水源導水管保護作業(至仏山荘、尾瀬ロッジ、山の鼻小屋、山ＶＣ)	27	管理員研修（那須平成の森）

尾瀬ヶ原周辺のできごと （尾瀬山の鼻ビジターセンター報告）		尾瀬沼周辺のできごと （尾瀬沼ビジターセンター報告）	
１０月		１０月	
3	新ベンチヘリコプター搬入	1	ナイトハイク（2回目）
6	北側デッキに第一生命寄贈の新ベンチ設置 至仏山初冠雪	4-7	一時閉館（コロナ感染対応）
8	ありがとう尾瀬瀬清掃活動	9	ナイトハイク（3回目）
10	山の鼻公衆トイレ（女子側９基）閉鎖 シラネアオイ保護柵撤去 クマ鐘撤去(原の川上川橋)		
12	研究見本園植生保護柵撤去(山VC､財団事務局､尾瀬室､尾瀬ボランティア､企業ボランティア、星野組、総勢32名)		
〃	クマ鐘撤去(テンマ沢湿原)		
13	消防設備点検	14	沼山峠ボランティアハウス撤去
15	笠ヶ岳立入り防止柵撤去		
〃	背中アブリ植生保護柵撤去作業		
16	ありがとう尾瀬清掃活動	16	低公害車両運行終了（大清水～一ノ瀬間）
17	至仏山侵入防止柵撤去		
22	オーニング撤去	19	大江湿原シカ侵入防止柵撤去 巡回最終日（会津駒ヶ岳）
24	女子トイレ閉鎖	21	夜のスライドショー最終日
〃	開館時間短縮 8:00～16:00	24	御池～沼山峠シャトルバス最終日
25	水源地清掃（中間バック、水源地注水口）ＶＣ3名、至仏山荘１名		
26	県有看板冬囲い養生 3 カ所(至仏山東面登山口、尾瀬ヶ原入口、見本園入口)	26	檜枝岐事務所閉所
〃	至仏山東面登山道入山口看板撤去 山の鼻小屋下山		
27	除雪機移動 防雪窓設置		
30	沼尻川橋橋板撤去	31	消防訓練実施（2回目）
31	ビジターセンター閉所	31	ビジターセンター閉所
１１月		１１月	
2	管理員下山	2	全員下山
7	職員下山、戸倉～鳩待峠間の冬期閉鎖		
24-25	第一回冬期調査		

巻末資料３

～　令和４年度　尾瀬のトピックス　～

＜新型コロナウイルス covid-19関連を含む＞

令和４年（2022年）

✧5月7日	植生保護のため至仏山登山道が閉鎖(期間：5月7日～6月30日)
✧5月16日	尾瀬山の鼻VCで開所式を実施。
✧5月21日	研究見本園の植生保護柵設置。ボランティア25名が参加。 尾瀬ヶ原湖見ごろ。
✧5月23日	ガイド協会による鳩待峠～山ノ鼻間の除雪に60人動員。
✧5月28日	尾瀬山開きを檜枝岐村の御池で開催。 尾瀬御池～沼山峠間のシャトルバス運行開始。
✧6月1日	遊覧船とバスを乗り継ぐ魚沼・尾瀬ルートの運行開始。 尾瀬Instagram投稿キャンペーン開始(第一回)。
✧6月11日	帝釈山・台倉高山山開き（馬坂峠登山口）
✧6月12日	田代山山開き（猿倉登山口）
✧6月18日	大清水～一ノ瀬間の低公害車両の運行開始。 （期間：6月18日～10月23日まで）
✧7月1日	至仏山山開き
✧7月2日	会津駒ヶ岳夏山開き
✧7月3日	燧ヶ岳夏山開き
✧7月19日	ツキノワグマ目撃多発により研究見本園を、至仏山東面登山道を除き全面閉鎖
✧7月22日～24日	ふくしま尾瀬フォトツアー「プロカメラマン・松本茜さんと登る・撮る、燧ヶ岳と尾瀬沼3日間」
✧8月20日～21日	ふくしま尾瀬体験ツアー「登山系YouTuber山下舞弓さんと歩く尾瀬沼と檜枝岐村の自然体験2日間」
✧9月5日	ツキノワグマの目撃が減少したため、研究見本園の閉鎖を解除。
✧9月21日	NTTドコモのエリア化工事が完了し各山小屋、両ビジターセンターでドコモが受信可能エリアに。
✧10月6日	至仏山と燧ヶ岳、会津駒ヶ岳で初冠雪
✧10月16日	ふくしま尾瀬フォトコンテスト2022受賞作品発表会（檜枝岐村）
✧11月30日	✧環境省から令和4年度尾瀬国立公園の入山者数発表。 入山者数163,223人で、コロナ前の2019年の約65％。
✧12月1日	尾瀬Instagram投稿キャンペーン入選作品発表。

※尾瀬沼地区再整備工事の状況

尾瀬沼ビジターセンター外構工事完了。男子トイレ及び詰所は改修工事継続中。
旧尾瀬沼ビジターセンターは令和6年度から解体開始予定。

尾瀬保護財団の沿革と概要

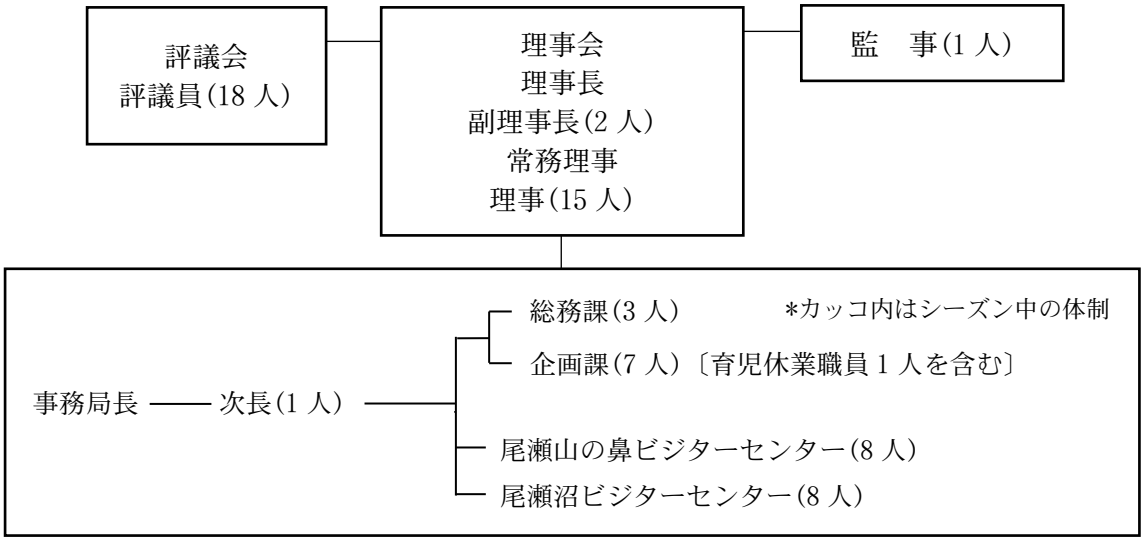
財団の沿革

平成 4 年 8 月 4 日	福島・群馬・新潟三県知事による「尾瀬サミット」（尾瀬沼山荘）
平成 7 年 6 月 13 日	財団設立発起人会（東京都内）
〃 8 月 3 日	財団設立、第１回理事会（尾瀬沼ヒュッテ） 群馬県大友庁舎（前橋市大友町）に事務所設置
平成 8 年 5 月 15 日	尾瀬沼ビジターセンターの運営開始（環境庁から受託）
〃 5 月 18 日	尾瀬山の鼻ビジターセンターの運営開始（群馬県から受託）
平成 9 年 4 月 1 日	群馬県公社総合ビル（前橋市大渡町）に事務所移転
平成 11 年 7 月 13 日	特定公益増進法人に認定（財団への寄附につき税制上の優遇措置が受けられる制度。以後２年毎に認定を更新）
〃 9 月 3 日	群馬県庁（前橋市大手町）に事務所移転
平成 25 年 4 月 1 日	内閣総理大臣により「公益財団法人」への移行が認められる

財団の概要

・設立日　　平成 7 年 8 月 3 日

・基本財産　　約 14.8 億円（令和 3 年度末現在）
・主な事業　　入山者啓発、自然解説、植生復元、施設管理、調査研究、顕彰事業など
・組織体制



尾瀬ボランティア　（令和 4 年 12 月末現在）
（登録者数 298 人
【内訳】活動中 227 人・休会中 71 人）

友の会　　（令和 4 年 12 月末現在）
（個人会員 492 人・家族会員 56 人・
ユース会員 1 人・賛助会員 16 件）
（特別会員 12 件）

施設概要

・尾瀬山の鼻ビジターセンター　　設置者：群馬県
鉄骨木造２階建　延床面積 344 ㎡　平成 5 年築
展示室 69 ㎡　ﾚｸﾁｬｰﾙｰﾑ 80 ㎡　事務室 17 ㎡

・尾瀬沼ビジターセンター　　設置者：環境省
鉄骨造２階建　延床面積 676 ㎡　令和 2 年築
常設展示室 108 ㎡　企画展示室 50 ㎡　ﾚｸﾁｬｰﾙｰﾑ 49 ㎡
事務室・会議室 95 ㎡

この冊子について

この冊子は、公益財団法人尾瀬保護財団が受託運営する尾瀬山の鼻と尾瀬沼の両ビジターセンターの令和３年度実績報告をまとめたものです。活動の概要を関係者へ報告するとともに、今後の運営資料として活用するために作成しています。

☆集計方法について

ビジターセンター入館者数　公衆トイレ利用者数

・　施設に設置されているセンサーで自動計測した結果をそのまま集計しています。
・　停電等により計測に不具合があった場合は、適宜補正しました。また自動計測のため、例えば行列や感知器の前に障害物がある場合には実際との誤差が発生しますが、これについては補正していません。

その他

・比率（％）で示した数値は、すべて小数点以下第２位を四捨五入しています。
・本文中に「ＶＣ」とある場合は、「ビジターセンター」と読み替えてください。

令和４年度

尾瀬山の鼻・尾瀬沼ビジターセンター運営記録

令和５年３月
〒371-8570　群馬県前橋市大手町一丁目１番１号
公益財団法人　尾瀬保護財団
Tel　(027)220-4431
fax　(027)220-4421
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞｱﾄﾞﾚｽ　https://oze-fnd.or.jp/
E-mail　ｱﾄﾞﾚｽ　info@oze-fnd.or.jp

ビジターセンターの自然体験プログラム

－　お問い合せは　－
公益財団法人 尾瀬保護財団
〒371-8570 群馬県前橋市大手町 1-1-1
TEL 027-220-4431
FAX 027-220-4421
E-mail：info@oze-fnd.or.jp

ビジターセンターでは利用者に尾瀬の自然の大切さを知ってもらい、マナーを守りながら利用してもらうためのさまざまなイベントを催しています。

ビジターセンターは山ノ鼻（尾瀬ヶ原の入口）と、尾瀬沼の東畔にあります（表紙裏の地図参照）。散策前に是非立ち寄ってみてください。

※　天候等により実施しない日もありますので、事前に財団へお問い合せください

窓口

スタッフが尾瀬のことにお答えします

窓口時間　山の鼻 VC　7:30～16:00
　　尾瀬沼 VC　7:30～16:00

展示

尾瀬のことがわかりやすくまとまっています。

開館時間　山の鼻 VC　7:00～18:00
　　尾瀬沼 VC　7:30～16:00

尾瀬情報

花の見頃や登山道の様子が毎週更新されています。
お出かけの前にチェックしてみてください。
尾瀬情報は尾瀬保護財団ホームページでも掲示しています。
URL　https://www.oze-fnd.or.jp/

セルフガイド

一人でも自然観察ができるガイドマップが揃っています。
「鳩待峠～尾瀬ヶ原」「研究見本園」「大清水～尾瀬沼」
「アヤメ平」「尾瀬沼」などがあります。

自然観察会

一緒に湿原へ出てみましょう！
周辺の湿原で動植物の観察をしながら散策をします。
山の鼻 VC　7:15～8:00,　尾瀬沼 VC　9:00～ 9:30
13:00～13:30 等
※　開催時期についてはお問い合せください。

企画展示

尾瀬を深く知るための特別展示です。
※　開催時期・内容についてはお問い合せください。

ビデオ上映

尾瀬のビデオが上映されています。
山の鼻ビジターセンターで上映
Hi-Vision「驚異の食虫植物モウセンゴケ」(20 分)
Hi-Vision「トンボ」(18 分)
Hi-Vision「クモ」(18 分)
「尾瀬その成り立ちとしくみ」(16 分)
「尾瀬はふるさと－空を渡る生き物たち－」(10 分)
尾瀬沼ビジターセンターで上映
「尾瀬国立公園の四季」(16 分)
「尾瀬沼の四季」(13 分)
＊ほかにもさまざまなビデオがあります。

スライドショー

スライドのはなしを聞きながら尾瀬の不思議を知る
「今日のショーはあるの？」と利用者から尋ねられる程の定番企画です。まずは参加してみてください。
土日祭日の前夜　山の鼻 VC：18:00～18:40
　　尾瀬沼 VC: 19:00～19:45
※　開催時期についてはお問い合せください。

尾瀬自然解説ガイド

実施日を限定して、自然解説ガイドが短時間のガイドをします（コース限定、有料、要予約)。
※　開催日についてはお問い合せください。

団体レクチャー

グループで尾瀬を学びたいので、案内して欲しい事前に申込みのあった団体には、観察会やスライドショーなどのプログラムを実施しています（要予約)。

お話しボランティア

平日の休憩ベンチには個性豊かな解説ボランティアがいます。
※開催時期や内容についてはお問い合せください。

拡大イベント（尾瀬沼 VC にて実施）

星空観察会やナイトハイクなどの他に専門家をお招きして、より深く専門性の高いイベントも実施しています。
※開催時期についてはお問い合わせください。

この他、ビジターセンターに関する色々な情報は、尾瀬保護財団のホームページをご覧ください。